

# 聖徳太子ゆかりの中宮寺

特集

県民ニュース

奈良を知ろう

暮らしに役立つ

お知らせ



整備後の塔基壇とコスモス

斑鳩町は、奈良県の北西部に位置する町で、聖徳太子が飛鳥から斑鳩に移り住んだことから、斑鳩町には法隆寺をはじめ、聖徳太子にゆかりのある寺院や遺跡が数多く残っています。

このうち、中宮寺は、聖徳太子が建立した七カ寺の一つで、聖徳太子の母である穴穂部間人皇后の宮を寺院に改めたとも伝わる、千四百年の永きにわたり法灯を守り伝えている尼寺です。

現在の中宮寺は、夢殿を中心とした法隆寺東院伽藍の北東に位置しています。この場所には、十七世紀の初め頃に移ったと考えられており、最初に建てられたのが、現在の場所から約四百メートル東方にある中宮寺跡です。

中宮寺が現在の場所に移転した後、創建された場所である中宮寺跡は、農地やため池になるなど、その姿はすっかり変わってしまいました。

昭和三十八(一九六三)年に、農地の中にあつた土壇の発掘調査が行われ、土壇の南半分が塔、北半分が金堂の基壇で、四天王寺(大阪市)のように南北に建物が並んだ配置をしていることが分かりました。このうち、塔の調査では、塔の中心を貫く心柱を支えるための礎石(心礎)が地下深くに据えてあり、その心礎上面から、金環(イヤリング)や金延板、水晶角柱、ガラス玉などが見つかっています。



整備前の中宮寺跡

中宮寺跡の発掘調査はその後も続けられ、飛鳥時代に創建された貴重な寺院遺跡であることが明らかとなり、国の史跡に指定されました。斑鳩町では、この中宮寺跡の保存と活用を図るため、発掘調査で明らかとなった塔や金堂の基壇部分を復元し、緑地広場を設けるなど、公園として整備しています。

## 中宮寺跡の発掘調査



出土した軒丸瓦



発掘調査中の様子



斑鳩町文化財活用センター ☎0745-70-1200